

第 38 回運営会議（2004. 10. 12 開催）結果報告		2004. 10. 13 庶務発信
開催日時：	2004 年 10 月 12 日（火）16:00～18:00	
場 所：	ぱ・る・るプラザ京都 6 階会議室 3	
参加者数：	運営会議委員 7 名（委員長、利水部会長、治水部会長、環境・利用部会長、住民参加部会長、琵琶湖部会長、淀川部会長） 河川管理者 3 名	
検討内容、 決定事項	<p>1 第 34 回委員会の議事内容について （ダムワーキングにおける検討経緯について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今本リーダーが、ダムについての検討方針（案）（河川整備計画の目標、ダムについての検討手順、ダムWG 報告書の作成）を説明する予定であるが、ここで検討が必要である。 <p>（河川整備計画の目標について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね 20～30 年に達成することを条件とすると、どこまで計画に盛り込むべきか。 ・ 堤防補強は、ダムの建設とは関係なく実施することが基本で、当面は洗堀や浸透を対象とした補強とせざるを得ないが、早急に越水も対象とした補強を行うべきである。 ・ 現状の堤防では、計画高水位までもたないが、河川管理者も重要課題として捉えている。ただ、技術的には対応できても、費用がかかり過ぎる。 ・ 洪水の規模について、既往最大というのは、地域住民の理解や実現可能性を考慮して、柔軟に考えるべきである。 ・ この点は、これまで曖昧になっており、ダムWG できっちりと議論したい。 ・ 環境については、生態系の保全の意味がわからない。環境は種族も含めて変わるもので、意見書では昭和 40 年代の環境ということ述べているが、その表現では上滑りしてしまう。 ・ 環境についても、20～30 年で達成したいという目標を掲げないといけませんが、100 年かかるものこそ実施していかなければならず、その意味では途中でもやむを得ない。 ・ 修復や回復という言葉もあり、一般の人が読んでわかりやすくする必要がある。 ・ 琵琶湖は、環境、治水、利水が絡んでくるため検討は難しいが、両立させないといけない。 <p>（ダムについての検討手順について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダムは最後の手段として考えたい。ダムがないとどのような致命的な問題があり得るのか。また、代替案を考えた時に致命的な問題があるのか、ないのかを触れる必要がある。 ・ 4～5 名でたたき台を作らないと意見を出しにくい、関係者が多忙である。 ・ 11 月初旬までに素案を作成し、11 月の委員会で意見を集め、それを反映したものを 12 月の委員会に出してほぼ確定させ、1 月の委員会で決定するようなスケジュールとなる。 ・ 住民から意見を聞く機会を設けるのがよいかどうか。また、設けるとすれば、どのような方法がよいのか。 ・ 検討案が円滑にまとめればよいが、11 月 16 日の第 35 回委員会の結果を踏まえて、実施するとすれば 12 月の初旬か中旬頃となる。 <p>（地域部会における検討経緯について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の進捗状況は資料が提出される度に議論しているが、ダムについては肝心な議論 	

に入れないでいる。ダムWGとの関係をどうようにして運営していくべきか。

- ・ 地域部会での議論は、ダムWGに反映して欲しい。
- ・ 事業の評価については、議論した内容をまとめて、各地域部会から報告して欲しい。
- ・ 各地域部会からの報告結果を踏まえて、委員会としては、ここだけは言っておきたいというものを出した。
- ・ 部会とダムWGを一緒に開催することについては、全く問題ない。

2. その他

(ファシリテーターから河川管理者及び委員長宛に出された要望の取扱いについて)

- ・ 委員会としては積極的に対応できないが、参考とすべきものは参考にしていく。

(その他)

- ・ 河川管理者は、ダムについての検討を引き続き推進しているところであり、次のダムWG (10/18) には新しい資料を提出できるようにしたい。
- ・ 先日の拡大学習会に提出された資料が、新聞報道されてしまったが、途中のものが出てしまうのはどうか。
- ・ たたき台を作れば公表と同じことになり、公表方法等は検討させて欲しい。
- ・ ただし、委員長から、基本的なルールは周知してもらわなければならない。

以上

※このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。